

「日本文明」とは何か ーパクス・ヤポニカの可能性ー

わが国の歴史をふりかえると、長期にわたる平和の時代が二度もあったことに気づく。平安時代の350年、江戸時代の250年である。こんなことはヨーロッパの歴史にも、そして中国やインドの歴史にもみられない。いったいどうしてそのようなことが可能だったのだろうか。ところがまことに不思議なことに、この大問題に正面から答えようとした研究がほとんどないのである。

むしろそのようなことが実現された背景には、いろいろな原因が考えられるであろう。だが、私の中でもっとも大切だと思う要因は、国家と宗教のあいだにじつに良好な調和が保たれていたということである。パクス・ローマナやパクス・ブリタニカにたいするパクス・ヤポニカの独自性が、そこに見出されるのである。

講 師 山 折 哲 雄 氏

(国際日本文化研究センター名誉教授)

略 歴:

昭和29年 3月 東北大学文学部卒業
昭和34年 3月 東北大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
昭和57年 1月 国立歴史民俗博物館教授
昭和63年10月 国際日本文化研究センター教授
平成 6年10月 国立歴史民俗博物館名誉教授
平成 9年 4月 国際日本文化研究センター名誉教授
平成 9年 4月 総合研究大学院大学名誉教授
平成 9年12月 白鳳女子短期大学学長
平成12年 4月 京都造形芸術大学大学院長
平成13年 5月 現職(国際日本文化研究センター所長 平成17年5月20日まで)

専 攻: 宗教学・思想史

研究テーマ: 宗教・文明の比較研究

著書・論文等:

『臨死の思想』人文書院 平成3年, 『近代日本人の宗教意識』岩波書店 平成8年,
『悪と往生』中央公論新社 平成12年, 『近代日本人の美意識』岩波書店 平成13年,
『愛欲の精神史』小学館 平成13年, 『悲しみの精神史』PHP 研究所 平成14年,
『死の民俗学ー日本人の死生観と葬送儀礼』岩波書店 平成14年, 『教えること、裏切られること
師弟関係の本質』講談社 平成15年, 『涙と日本人』日本経済新聞社 平成16年,
『テクノボーになりたい 私の宮沢賢治』小学館 平成17年